

# 全国一般愛知地本

2020年 7月号

発行 2020年 7月 22日(水)

発行責任者

全労連・全国一般労働組合愛知地方本部

執行委員長： 煤本 國治

## 第11回拡大中央執行委員会開催

### 5月23日コロナ禍での リモート参加

今回の中央執行委員会、新型コロナウイルス感染症予防の為に、これまで以上に一か所に集まって会議をするということが出来ず、ZOOMによるリモート会議形式で開催となりました。

愛知は中央執行委員をだしていませんが、リモート開催であった為、今回は参加することが出来ました。参加者は、それぞれの自宅・組合事務所からの参加となりました。序盤は上手く接続できなくてつまずきましたが、きちんとつながれば画面に表示される参加者の顔を見ながら声を聞くことができ、違和感はありませんでした。

**経営状況の悪化で  
労働者にしわ寄せ**

新型コロナウイルスの影響で厳しい状況に置かれている人たちの報告があり、休業が広がり収入が途切れても保障が進まない。この国はお金の使

い方に、もっと工夫が必要ではないかと思えてきます。ともかく感染の拡がりを抑えなくてはなりません。どんなことのためにお金や時間を使うのか、普段からもっと皆で考えて意見を出さなくてはいけないと思えました。夏に予定されている全労連や全国一般の中央定期大会についても縮小される方向で話が進んでいます。仲間が集まりにくい状況が続きます。

**アクリルから  
争議の報告**

日本アクリルの工場閉鎖問題についてはアクリル支部の執行委員長から報告がなされ、中央本部の書記長からは、コロナの影響で都労委の動きが止まっていること、北米

ダウの労働組合とのやり取りに欠かせない全労連としての海外との連絡もままならず、閉鎖予定が9月に迫っているなかで、今後の動きをどうしてい

くか、ともかく都労委を動かさなくては、と意見が出されました。この時は、アクリル支部書記長、愛知地本執行委員長も加わり、リモート会議のなかで地本の連帯感を感じることができました。

**最低賃金  
引き上げの重要性**

今年の夏季闘争は、考え方・視点も変えるべきではないかと考えています。最低賃金の引上げという点がますます重要になってくるのではないかと、1500円が必然になるのではないかと、といった意見に大いに共感しました。リモート会議は意見・認識をどのように共有するかという課題をつめていけば、使えるツールになりそうです。  
(地本書記長・恒川)



## 6/20地本共済会主催潮干狩り

組合員交流の「潮干狩り」を知多半島矢梨海岸で行いました。地本からは、全国一般の幟の下に大人12人、子供3人の15人が参集してくれました。到着したグループから入



漁料を支払い(地本共済負担)好きな場所を陣取ってあさりを拾いはじめました。私は沢山取っている人に「どうしたら見つけることができるのか?」と素直に聞いて見ました。そしたら、「黒い砂の場所です」とのことでした。そこで、言われた通りに探してみたら1時間程度で結構見つけることが出来ました。来年に向けて愛知地本共済会としてのレクレーション等を考えますので皆さんからの御意見を地本へお寄せ下さい。  
(地本共済会事務局・志水)

共済会に加入しましょう

セット共済 できました!!

5つのコースからライフスタイルに合ったコースをお選びいただけます。

火災共済

共済会事務局・志水



# 7・8全労連・東京地評争議支援総行動

## アクリル支部全日ストで参加

### 7・7経産省へ要請

愛知地本と日本アクリル支部は経済産業省に対して、日本アクリル名古屋工場の閉鎖撤回を会社に指導することを求め、要請行動を実施しました。愛知地本煤本委員長とアクリル支部林委員長ら4名は、翌日の争議支援総行動に先立って車に分乗し東京入りし、他に中央本部から4名・東京地本から1名の参加しました。経済産業省からは吉



経済産業省での要請

村素材産業課長以下3名が参加、労働組合の要請事項に対し経産省は「個別企業の経営判断に口を出すことはできない」としつつも、「重要産業については国内製造体制を強化する国の方針がある」「コロナ禍で雇用維持が重要」との認識を示しました。しかし、労働組合が争議の本質は多国籍企業の横暴であり、国内産業や地域産業の衰退にもつながる国全体の問題であること

を訴え、会社に対する指導を求めました。

### 7・8行動にストライキで参加

全労連と東京地評の呼びかけで争議支援総行動が行われました。全国一般からは東京地本の民事法務労働組合、昭和ゴム労働組合、計器工事関連分会、愛知地本の日本アクリル支部がエントリーし、社前行動や要請などを行いました。全国一般の参加人数は72名（埼玉4、東京45、神奈川2、愛知19、大阪1、中央1）でした。アクリル支部の

メンバ―は組合員全員でストライキ、あつた支部から恒川氏が東京の行動に参加し、アクリル及びダウ・ケミカル日本本社天王洲ビル前で宣伝カーによる街宣行動を実施し、その中で要請団を全労連や中央本部、東京地本、愛知地本、当該職場の役員総勢8名で結成し会社へ出された都労委の2回目の要望書の意味を訴えるとともに争議解決の要請を行いました。

（地本委員長）



本社へ向かう要請団

### 【今後の日程】

- 7月26日（日）  
愛労連第62回定期大会
- 7月29日（水）  
フロンティア21幹事会
- 7月29・30日（水・木）  
全労連第30回定期大会
- 8月01日（土）  
愛労連女性協議会第31回総会
- 8月01日（土）  
わくわく講座開校式
- 8月07日（金）  
アクリル支部第49回定期大会
- 8月19日（水）  
アクリル争議都労委調査
- 8月20日（木）  
第3回評議委員会
- 8月22日（土）  
アクリル争議支援共闘会議
- 8月29日（土）  
あつた支部定例会議
- 8月30日（日）  
全国一般中央第32回定期大会



## 河口・サポート再雇用問題解決

渡辺産業(株)という表面処理材料商社で1999年に3人で組合結成をし、その後ケミカルサポート(株)、(株)河口・サポートと会社組織の変遷がありました。最後まで全国一般の組合員として残っていたのが大矢氏でした。同氏は2020年6月に定年退職を迎えるということで、支部・地本は2年前の2018年から会社と5回に渡り断続的に交渉をしてきました。

組合は大矢氏の安心の出来る生活を展望しながら、会社提案の再雇用条件も含めて年金や高齢年齢の第5回団体交渉で会社と合意に至り、この再雇用問題は円満解決をしました。大矢氏は5月20日で会社を離れることになりました。交渉前には必ず打合せをもって交渉方法・内容についての意思統一をしてきました。今年に入り、交渉も大詰めを迎える途中で会社元社長(現社長の父親)の逝去や新型コロナウイルスによる団体交渉の延期などに遭遇し、会社から提示された最終提案も一時は撤回され、



大矢光造 氏

長い間ご苦勞様でした。今後、地本での活躍を期待しております。